

日本原子力学会 標準委員会 基盤応用・廃炉技術専門部会
第87回廃止措置分科会（R3SC） 議事録

1. 日時 2023年10月3日（火） 9:00-11:00
2. 場所：Web会議 （Webex）
3. 出席者：岡本主査、目黒副主査、杉山幹事、青井、生駒、石原、工藤、黒川、
小山、佐藤、高橋、田村、鳥居、仲田、西村、平井、見上、山本
（欠席 田中、中村）（敬称略）
4. 配布資料
 - ① R3SC-87-1 人事案件
 - ② R3SC-87-2 第86回廃止措置分科会議事録（案）
 - ③ R3SC-87-3-1 耐震安全技術レポート本文（素案）
R3SC-87-3-2 耐震安全技術レポート付録E（案）
5. 議事
 - (1) 一般事項
 - ① 18/20名の出席により分科会成立を確認した。
 - ② 人事案件 今回は無し
 - ③ 技術レポート本文及び付録Eへのコメントと合わせて、試算結果を踏まえた考察に関する提案を募集する。（期限：10月13日）
 - ④ 次回の分科会は、10月24日 10:00～12:00（オンライン開催）
 - ⑤ 次々回分科会は、11月16日 10:00～12:00（オンライン開催）
 - (2) 前回議事録確認 [R3SC-87-2]
特にコメントなし
 - (3) 耐震安全技術レポート付録E（案） [R3SC-87-3-2]
 - 技術レポート本文（R3SC-87-3-1）は前回提示のものから変更ない旨、担当の委員から発言があった。
 - 付録E（R3SC-87-3-2）について工藤委員から内容の説明があった。
 - ✓ 岡本主査から、評価結果より合理的に考察できる事項について、定性的でもよいので記載することとコメントがあり、担当委員から拝承すると発言があった。
 - ✓ 委員から、参考扱いとしたケースについて、参考扱いにできる根拠等を記載してはどうかという意見があり、担当する委員からE.2(2)の事象選定の説明（p5）において、事象発生防止対策が講じられており発生頻度が極めて低いと考えられる事象を参考とすることを記載しており、p17からの詳細評価のまとめでは明確に書き分けていない箇所があるので、該当箇所については修正すると発言があった。
 - ✓ 委員から、随伴事象としての火災について、地震によって火災が起こる口

ジックが示されておらず、ギャップがあるように感じる。念のためのシナリオは参考としていくなど整理してはどうか。地震は確率的な事象であるので、工事を短時間で終わらせることや長期になる場合には対策を講じる等リスクの観点から定性的な説明をしてはどうかという意見があり、担当委員から、事象進展について情報が足りておらず断言できない状況のため、注意喚起のような形で課題として記載することを検討すると発言があった。また、岡本主査から、p4で「本来は、地震と火災の重畳は考えにくいだが・・・」というような記載をしてはどうかとコメントがあった。

- ✓ 岡本主査から、CIは水中にあれば問題ないので、その状態をキープすることを前提とした解体作業について考察をp22(5)に記載すること。定性的で構わないので委員の方々から記載事項を提案いただきたいとコメントがあった。
- ✓ 岡本主査から、今回の試算例と全体の結論を国内外いずれでもよいので論文として投稿してもらいたいとコメントがあった。
- 担当委員から作成中の付録G「原子炉建屋の試算例」の概要の説明があった。
- 岡本主査から英国ONRの安全評価原則の説明があった。事象の発生頻度と許容できる影響の大きさに関する階段状の制限線に基づき実施の可否を判断することの重要性及び必要性を説明いただいた。

以上